

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 30 年 3 月 23 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3492300029		
法人名	社会福祉法人 広島友愛福祉会		
事業所名	グループホームふきのとう		
所在地	広島県大竹市松ヶ原854-1 (電話) 0827-57-7288		
自己評価作成日	平成30年2月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3492300029-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3492300029-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT & WORK
所在地	広島市安芸区中野東4丁目11番13号
訪問調査日	平成30年3月23日(金)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>理念に基づき「私達は 笑顔を大切にします」を常に心掛けています。男性職員、女性職員、幅広い年齢層の職員が勤務しているので、色々な目線からご入居者様と関わりが出来、本当の家族のような、関係性で日々の暮らしを大切に一日を過ごすように努めております。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>グループホームふきのとうは、田園風景が広がる閑静な地域で、住民の希望もあり、平成10年に開設された。食事は、近隣の食材も使用して、職員と利用者の料理好きな方と一緒に手作りしている。日々恒例になっているラジオ体操や歌体操、機能訓練等により、比較的足腰が丈夫で、車椅子の方が1名である。基本方針にもあるように、「個別ニーズに基づいたケアの充実を図る。地域との連携を強化する等」により、地域との交流も盛んで、行事に積極的に参加されている。人材育成にも力を入れておられ、職員のスキルアップも見られる。リビングの窓からは、四季の移り変わりを感じる事ができる。こちらのホームから見える地域の田園風景の絵画の寄贈もあり、来られる方の郷愁を誘う。地域からも愛され、ゆったりとした時間が流れているホームである。</p>
---

グループホームふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念「私たちは 笑顔を大切にします」をフロアに掲げ常に理念を念頭に置いて、サービスの提供を行っております。笑顔は、ご入居者様職員も、共に笑顔で暮らせるように、心掛けております。	グループホームふきのとう独自の理念は、職員全員で考えた理念で「笑顔を大切にします」をモットーに事務所、フロア、各書類の下部に記載されていて、笑顔あふれる介護を目指している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	昨年4月に松ヶ原地区自治会に入会させていただいた。野菜や米は地域の「わくわくファーム」に毎週買い物に行き、地域との関係が良好である。	ふれあい健康・福祉まつりに作品参加したり、地域こども館の敬老会に呼んでもらったり、10周年記念イベント、ふくろう敬老会に参加してもらったり、神楽鑑賞、夏祭り、秋祭り、町内清掃等に参加され、積極的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では民生委員の方に働きかけているが、民生委員からの相談等はまだない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2カ月に1回運営推進会議を行いご本人、ご家族自治会長・民生委員・地域包括・市役所の地域介護課の方等にご参加いただいている。ホームのご様子やご意見などの話し合いを行い、意見を改善に反映させている。	介護高齢者係職員・地域包括支援センター職員、自治会会長・民生委員・認知症家族の会・利用者家族・本人・訪問ナース・代表者・職員等が参加され、最近の状況、行事予定、行事報告、事故報告、意見交換等、話し合い、そこでの意見をサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議に出席いただき、情報のやりとりを行っている。介護保険の更新認定申請などの代行も行っている。	運営推進会議に出席しておられ、日頃から、連絡を取っている。又、相談ごとや地域包括支援センターから、待機者を聞かれたり利用者を紹介されたり、災害時の避難場所を受けたりと協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	事業所の身体拘束をしない取組をフロアに掲示している。職員は身体拘束についての法人内研修に参加し周知徹底している。	年に数回に分けて母体である法人で職員は研修を受けて、その都度、各人で報告書を提出しており、理解出来ている。安全面において、玄関ドアは、施錠しているが、その他のフロア扉や居室の掃き出し窓には、施錠してなく、ベランダへ自由に出入りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	事業所の虐待防止・権利擁護の取組についてをフロアに掲示している。職員は権利擁護研修に参加し、また職員間でもお互いが声掛けなどに注意しあえる関係である。		

グループホームふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	事業所の虐待防止・権利擁護の取組についてをフロアに掲示している。現在後見人制度を利用の方はいないが、制度については研修等で学んでいる。今後、必要に応じて活用していく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は必ず管理者かホーム長が同席し、十分な説明を行い疑問や不安などはしっかり確認しご理解をいただいた飢えで		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族等のご意見、要望は面会時や電話等でいただくことが多い。スタッフに意見を言いやすいような係が築けている。意見箱も設置しているがほぼ入っていない。また運営推進会にも参加していただき、ご意見をいただいている。戴いた意見はすぐに職員でシェアし改善に向けている。	ご本人・家族は、運営推進会議に出席される方もあり、面会時や電話で、意見や要望を聞いている。家族の高齢化により、受診に連れて行く事が困難になっているという相談があり、先生の往診が実現したり、車椅子の方の排便等について意見を聞き運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に一回、施設長面談があり自分の思いを伝える制度がある。また提案・相談等は随時ホーム長、管理者が受けて対応している。	ホーム長、管理者には、言いやすい環境があり、職員は、その都度、意見や要望を出している。又、年に1度は、施設長の面談もあり、思いを伝え、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	出来る限り職員の就業条件、健康の条件も配慮しながら意見を聞いている。業務分担はなるべく本人の意欲や適性を考慮して作っている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	2017年度、OJT中心の「医療介護知識向上学習プログラム」を1名実施し、やりとげることができた。法人内外の研修にはシフト調整をしてなるべく参加できるようにした。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	2017年度は1名をグループホーム協会主催の「グループホーム相互研修」に派遣、1名の研修を受け入れ多くの収穫があった。研修を生かして他施設のよい取り組みを取り入れて実施できるよう試行中である。		

グループホームふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用契約前にはご本人に見学に来ていただいたり、施設またはご自宅で事前に面談している。なるべくご本人の意見をお聞きし早く信頼関係が築けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用契約前にはご本人と共にご家族に見学に来ていただいたり、施設またはご自宅で事前に面談している。ご家族の思いや要望をお聞きし、早く信頼関係が築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	契約前の見学や面談時に本当に困っているところを見極めるよう努め、必要に応じて他の制度や他の施設の説明や紹介をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事の支度、洗濯物干しや洗濯物たたみ等を手伝っていただき、ご本人が出来る事を職員と共に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、今月のご様子や写真を送付し日常の様子をお伝えしている。通院の依頼や面会の少ないご家族にも来ていただけるよう着替えを持ってきていただいたり、行事の参加案内などの工夫を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会時にお茶を出したり、時には話しに入ったり、入居者様と面会者がより良い関係作りが出来るよう支援を行っている。外出プログラムでなじみの場所に行く事もある。	利用者は、家族と一緒に、ドライブがてら、地元に戻り、昔の友人・知人と会ったり、兄弟・姉妹の訪問があったり、配慮しながら、馴染みの人や場所との関係を維持していけるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	家事やレクリエーションの際は入居者同士で交流できるような声掛けを工夫して皆で楽しむ時間を作り、一緒に過ごしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院や施設入所された退所者には面会に行き様子を把握している。退所者家族の相談があったときは支援している。		

グループホームふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活歴を把握した上で普段のコミュニケーションの中からお希望、ご意向に努めている。	各個人のケアシートに暮らしぶりを書き込み、その方の希望や意向の把握に努め、ぬり絵や料理、入浴好きには、湯加減に注意したり、洗濯物を干す役割をお願いしたりと、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時の面談で生活歴や今までの経過をお尋ねし、希望や御意向を反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェックをし、様子や変わったことがあれば申し送りを必ず行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	必要に応じて本人、ご家族、看護師、病院、スタッフの意見を聞き、ケアカンファレンスにて介護計画を作っている。細やかに定期的に計画書を作り直していないのが課題。	ケアプランは、6ヶ月毎のモニタリングで、話し合い、家族の意見や職員の意見により、利用者の現状に即したものを作成している。長期目標は1年、短期目標は6ヶ月で、見直しを行い、変化があった場合は、その都度、見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ケア記録を毎日記録している。その記録に基づいてケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご要望に添えるよう職員間で話し合いを行い対応している。人員不足が課題。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	自治会に入会し、地域の行事に参加させていただき、ボランティアの方にもおこしいただいた。地域の方より、地域の風景の絵を寄贈していただいた。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人と家族を意向を尊重し、6名が希望され訪問診療を受けている。また、3名は入居前のかかりつけ医に通院している。	提携医もしくは、在宅時のかかりつけ医の受診も行っている。各人によっても往診の回数は、異なる。訪問看護師との連携は、24時間体制を取っている。又、その他希望する医療を受けられるように支援している。	

グループホームふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護ステーションとの連携、協力の体制がとれている。24時間困ったことがあれば看護師に連絡することも出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のMSWと連携し、入退院時の情報の共有に努めている。入院時には必ず面会に伺っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に重度化指針の説明し同意を得ている。看取りケアは過去1名実施したがほぼ入院先で亡くなるが多かった。今後は終末期ケアにも取り組んでいきたい。	契約時に、重度化した場合における指針に「可能な限り住み慣れた施設で介護を受けられるように最大限に努めます。」を説明して、状況変化に応じて気持ちの確認をして皆で共有し、連携を図っている。過去1名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時対応マニュアルを制作している。事故後は経過報告書、ヒヤリハット報告を共有し、皆で対策を検討し、再発予防に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制を築いている。	事業所内で緊急マニュアルを作成している。防災研修や避難訓練を定期的に行っている。また、地域と防災協定を結んでいる。災害時は等事業所が避難先となっている。	年2回避難訓練を実施している。内1回は、消防署指導で行われ、昼夜想定、初期消火訓練、避難誘導、通報装置使用訓練を行い、防火意識高揚を図っている。又、事業所が災害時の避難所となっており、非常食の備蓄の準備もしている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	排泄中は職員がトイレの外に出るようにしている。ことば掛けも配慮しているが、時々高齢者への尊厳が感じられないようなため口、命令口調が見られ、課題である。	個人情報・プライバシー保護の職員研修が、法人の母体に於いて、年数回あり、職員全員が受けている。特に言葉遣いには、注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	意識して認知症の方が自己決定が出来るように働きかけている。飲み物の選択、トイレ誘導や入浴時のときなど。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人のペースを尊重し、どのように過ごしたいかを聞き入れている。		

グループホームふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、洗面、整容をしている。2か月に一回訪問美容があり、希望に沿ってカット、カラー等を行っている。その際にはお化粧をしてくださる。また季節に応じてご家族に衣替えを依頼している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	3食とも職員が好みや苦手なものを考慮して調理している。外食支援や、行事などの時には、季節を味わっていただく献立も考えている。	職員の手作りや業者の材料を使用し行事食も作っている。米や野菜や旬の物は、地域の「わくわくファーム」にて購入している。慣れた包丁使いで、利用者の方も職員と一緒に台所に立つ姿も見られる。近くのゆめタウンへ、おやつを食べに行く事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	本人の嚥下状態や病気などに対応し、刻み食や糖尿の方の食事量の調整などを行っている。個々の食事量をチェックし健康管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後必ず口腔ケアを行っている。夜間には義歯の洗浄、消毒を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の状態の把握を行い必要に応じてトイレ誘導を行っている。紙おむつの方でも朝食後はトイレに座っていただき、トイレでの排便を促している。	排泄チェック表を作成しており、パターンを把握し、個々に応じた声掛け誘導をしている。夜間は、巡回してトイレ誘導する方も居られる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日のラジオ体操と運動を行い、便秘予防に努めている。困難の場合は、ドクターより指示をいただいた下剤を飲んでもらっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	午前中に入浴をしてもらっている。拒否の強い方には声掛けの工夫を行ったり日時をずらして対応している。入浴剤を入れて季節感を感じてもらっている。皆さん入浴が好きなので楽しみにされている方が多い。	入浴は、週2回～3回、便失禁のあった時は、その都度シャワー浴等で、支援している。又、入浴剤(ラベンダー、ゆず等)を入れて、入浴をより楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の希望時間に応じて寝ていただいている。日中も体調や希望により休息を取っていただき、十分な睡眠がとれるよう配慮している。自分の部屋にテレビがあり、好きなようにつけたり消したりすることができる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	スタッフの薬の理解は個人差がある。薬が変わったときは特に注意深く観察するようにしている。気になる点は医師・薬剤師・看護師に相談している。		

グループホームふきのとう

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	歌が好きな方が多く、ホール内には音楽を流すことが多い。午後からのレク活動ではゲームやカラオケなどは特に喜ばれる。すぐできる方には家事を手伝っていただいているが、一人一人の役割作りは今後の課題である。	/		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩、日課など日常的には外出できていない。外出プログラムは昨年8回実施した。少人数に分けて、ドライブを兼ねての夕食を行った。今後は日常的に外に出る機会をもっと増やしたい。	日常的な外出は難しい面もあるが、気候や体調に合わせて、外出支援を行っている。初詣、花見・近隣のドライブ・地域行事に参加(夏まつり・秋まつり・神楽鑑賞・福祉まつり・地域の敬老会)等、地域の人々と協力しながら、支援している。	/	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	預り金は預かっているが街中ではないため、あまりお金を使うことは無い。外出の際は自分で買い物していただけるよう手渡している。	/		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎年、ご入居様が御家族に年賀状を書かれている。電話も必要に応じてかけていただいている。	/		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	空調に配慮して快適な空調を心掛けている。季節を感じていただけるように壁面飾りや花瓶に花を飾り工夫をしている。	共有スペースは、利用者が安全に使用出来るようにテーブル、椅子、ソファ等、配置に工夫している。毎日窓を開閉し、空気の入替えを行い空調管理にも気遣いがある。各テーブルには、皆さんが、持ってこられた生花が飾られ、季節を感じる事ができる。階段の踊り場には、地元の方から寄贈された田園風景の絵画が飾ってある。フロアは利用者と一緒に作成した飾りが色々飾られ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	/	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合う入居様がご一緒に座ることが多く、好きなようにソファで過ごされるように出来ている。	/		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室にはできるだけ馴染みの家具等を持参していただいている。仏壇を居室に置かれている方もおられる。	居室には、洗面台・ベット・クーラーが設置しており、利用者にとって馴染み深い藤椅子や仏壇・遺影・家族写真等が飾られ、利用者の居心地よさに配慮している。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや浴室は分かりやすいように表示しており、手すりや入浴用の手すりを設置し、安全安心な生活が送れるよう工夫している。	/		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホームふきのとう

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームふきのとう

作成日 平成 30 年 3 月 24 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	23	個別ケアをしていく	生き生きと笑顔が多く楽しい生活が出来るように援助していく	その人らしい生き方の思い、気持ちに寄り添う担当者との時間を作る	6ヶ月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。